

令和8年度 専攻科 入学案内



独立行政法人国立高等専門学校機構

高知工業高等専門学校

〒783-8508 高知県南国市物部乙 200 番 1

〔学生課 総務・入試係〕

TEL (088) 864-5621・5644

FAX (088) 864-5536

ホームページアドレス <https://www.kochi-ct.ac.jp/>

入学案内／専攻科

1. 設 置

平成12年4月1日

2. 目 的

本校専攻科は、高等専門学校などの高等教育機関において、工学の基礎と実践的技術を修得した者に対して、更に2年間の高度で専門的な技術・学問を教授することによって、実践的かつ創造的な研究開発能力を持つ高度な技術者を育成することを目的とします。

3. ディプロマポリシー(修了認定の方針)

本校専攻科の養成する人材像(ディプロマポリシー)は以下のとおりである。

学則で定める修了要件を満たすとともに、以下に示すような知識及び能力を備えた者に対して修了を認定する。

(養成する人材像)

- ① 本科で学修した工学(融合複合)分野の知識・技術をさらに深めながら、地域・産業あるいは世界が抱える諸課題に対して、最先端の情報技術を連携させた技術システム・社会システムを創造・デザインして解決に貢献できる人材
- ② 情報・環境・公共の安全等に対応できる高い倫理観をもち、国際的な視点に立って判断のできる人材
- ③ 複数の分野の知識の新たな組み合わせを活用することで、それまでに個別の分野の知識では解決が困難であった最先端の課題に取り組むことができ、地域や産業の即戦力として幅広く活躍できる人材

この養成する人材像(ディプロマポリシー)を実現するため、具体的な学習・教育目標として次の(A)～(E)を掲げて教育を実施する。

(学習・教育目標)

- (A) 高い倫理観をもち、グローバルな視点に立って行動できる。
- (B) 数学・自然科学、情報工学及び専門基礎に関する知識・技術を工学(融合複合)分野に応用することができる。
- (C) 高度な専門知識をもち、その技術と情報技術を組み合わせて構築させる複合システムデザインの基礎を身につけることができる。
- (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる。
- (E) 地域・産業あるいは世界が抱える課題解決のための創造力、複合システムデザイン力及びチーム力を発揮できる。

4. カリキュラムポリシー(教育課程の編成及び実施方針)

学習・教育目標に掲げる能力を育成するために、教育課程は次の基本方針(カリキュラムポリシー)を

もとに編成している。

教育課程の実施方針は、本科の教育課程との接続を「授業科目関連図」に示すとともに、シラバスにおいて教育内容・方法、学修成果の評価等について明記する。なお、評価はシラバスに示す成績評価の基準・方法に従って行い、60点以上を合格とする。

- (A) 高い倫理観をもち、グローバルな視点に立つて行動できる能力を育成するために、一般科目（技術者倫理，社会学特論），専門共通科目（環境工学特論，プロジェクトマネジメント概論，地域計画学）を設ける。
- (B) 工学（融合複合）分野に応用できる能力を育成するために，専門基礎科目（数理科学，基礎科学，情報工学に関する科目），専門共通科目（情報システム論）を設ける。
- (C) 高度な専門知識は，異なる工学分野の教員が協働で授業を行う連携教育（機械工学と電気電子工学または土木工学との連携等）で深めていく。また，システムズエンジニアリングの基礎力とデザイン思考力を育成するために，実験・演習科目（システム工学実験，システムデザイン演習など）を設ける。
- (D) 国際適応力を備え，グローバルに活躍できる能力を育成するために，本科からの英語及び日本語教育に加え，専攻科では「英語コミュニケーション」，「英語購読」を必修科目として設ける。
- (E) 地域・産業あるいは世界が抱える課題を解決できる能力を育成するために，「インターンシップ」，「長期インターンシップ」，「海外インターンシップ」，専門分野の異なる学生がチームを組む「プロジェクトデザイン工学演習」と，異なる工学分野の教員を含む2名以上の教員から指導を受ける「特別研究」を設ける。

5. 長期履修学生制度

職業を有している者等で，特別な理由により，専攻科の通常の修業年限の2年を超えて一定の期間（4年の期間内）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する者は，申し出によりその計画による履修が認められます。

なお，長期履修学生が納付する授業料の年額は，当該在学期間を認められた期間に限り，通常の修業年限の授業料に前記修業年限を乗じて得た額を長期在学期間の年数で除した額となります。

6. 学士の学位取得

高等専門学校を卒業し，一定の要件を満たした場合，大学改革支援・学位授与機構の審査により学士の学位を取得することができます。

その要件とは，大学改革支援・学位授与機構の認定を受けた高等専門学校の専攻科で2年以上にわたって62単位以上を修得し，大学と同等の基準にあると認められることです。本校の専攻科は，次の6分野について大学改革支援・学位授与機構の認定を受けていますので，専攻科修了時には選択した分野の学士の学位を取得する途が開かれています。

電気電子工学，機械工学，情報工学，土木工学，建築学，応用化学

7. JABEE 対応教育プログラム「建設工学」

ソーシャルデザイン工学専攻（専攻の区分：土木工学）開講の授業科目は，JABEE 対応教育プログラム

「建設工学」の一部となっています。(詳細は、JABEE 対応教育プログラム履修の手引参照)。JABEE 対応教育プログラムの修了の要件は、次のとおりです。

- (1) ソーシャルデザイン工学科(まちづくり・防災コース)を卒業していること
他の高等教育機関等からの専攻科入学者の場合は、高知高専ソーシャルデザイン学科(まちづくり・防災コース)卒業に相当すると認定されること
- (2) ソーシャルデザイン工学専攻(専攻の区分：土木工学)を修了していること
- (3) 学士(工学)の学位(大学改革支援・学位授与機構による)を取得していること

8. 技術士補資格の取得

日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた、本校の建設工学教育プログラムを修了した者は「技術士補」となる資格を有します。

【技術士・技術士補とは】

技術士制度は、技術的専門知識及应用能力と豊富な経験を有する優れた技術者の育成を図るための国による技術者の資格認定制度です。

a) 技術士は、

技術士法に基づいて行われる国家試験(技術士第二次試験)に合格し、登録した人だけに与えられる称号です。国はこの称号を与えることにより、その人が科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを認定することになります。従って、技術士は、科学技術の応用面にわたる技術者にとって最も権威ある国家資格と言えます。

b) 技術士補は、

技術士法に基づく国家試験に合格し、登録した人に与えられる称号です。技術士補は、技術士となるのに必要な技能を修得するため、技術士を補助することになっています。この技能修得後、技術士第二次試験を受検できます。

9. 入学時に必要な諸経費(令和5年度実績のため、改定場合があります)

入学科 84,600 円

授業料 117,300 円(年額 234,600 円のうち前学期分)

教科書代等 50,000 円程度

* 入寮を希望し許可された者は、寮関係経費が別途必要です。

37,000 円程度 入寮費(入寮時のみ)、寮費及び部屋代(半期 6 ヶ月分)

10. 授業料、入学料の免除及び徴収猶予制度

(1) 高等教育の修学支援新制度

定められた学業基準と家計基準(住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯)を満たす場合、本人の申請に基づき選考のうえ「入学料・授業料の免除」と「給付奨学金の支給」の支援を受けることができます。

◆支援区分:世帯収入により決定する区分に応じ、本校においては下表の支援が受けられます。

区分	入学料・授業料	給付奨学金支給月額		備 考
		自宅通学	自宅外通学	
第Ⅰ区分 (非課税世帯)	全額免除	17,500 円 (25,800 円)	34,200 円	カッコ内の金額は、生活保護世帯及び児童養護施設等からの通学者が対象となります。
第Ⅱ区分 (準非課税世帯)	2/3 免除	11,700 円 (17,200 円)	22,800 円	
第Ⅲ区分 (準非課税世帯)	1/3 免除	5,900 円 (8,600 円)	11,400 円	

＊令和7年度からの多子世帯に対する授業料等無償化について

令和7年度から多子世帯の学生に対して、授業料及び入学金を、国が定める一定の額まで所得制限なく無償化とする改正が予定されています。この改正における支援内容等については、文部科学省ホームページに公表されています。

高等教育の修学支援制度に関する案内は、3月から4月頃に本校ホームページに掲載しますので、随時ご確認ください。

(2) 入学料免除・授業料免除

入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者(学資負担者)が死亡した場合又は入学者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合、その他やむを得ない理由により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には、選考のうえ、全額もしくは半額を免除することがあります。

(3) 入学料徴収猶予

経済的理由により納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者については、本人の申請に基づき選考のうえ、入学料の徴収が猶予されます。(入学料の徴収を入学年度内に定める期限まで猶予するものであり、免除されるものではありません。)

11. 奨学金制度

(1) 日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともに優れ、かつ健康であって学資の支弁が困難である場合、本人の申請に基づき選考のうえ、第一種奨学金(無利子)、第二種奨学金(有利子)、の貸与を受けることができます。

◆貸与月額:世帯収入及び通学形態等により貸与月額が異なります。

種 類	月 額		備 考
	自宅通学	自宅外通学	
第一種 (無利子)	45,000 円 30,000 円 20,000 円 のいずれか選択	51,000 円 40,000 円 30,000 円 20,000 円 のいずれか選択	・自宅外通学生は、自宅通学の月額も選択可能です。 ・最高月額は、奨学金申込時の家計支持者の収入が一定額以上の場合、利用することができません。
第二種 (有利子)	20,000 円～120,000 円 (10,000 円単位で選択)		

入学時 特別増額 貸与奨学金	100,000 円～500,000 円 (100,000 円単位で選択)	認定所得金額が 0 円以下である世帯又は「国の教育ローン」を利用できなかった世帯の学生が対象となります。
----------------------	---	--

(注意)・第一種奨学金について、給付奨学金と併用して支給を受ける場合、給付奨学金の支援を受けている期間は、上表の貸与月額が調整(減額)されます。

・入学時特別増額貸付奨学金のみの申込みはできません。第一種奨学金・第二種奨学金のどちらかに増額して貸与を受ける必要があります。申込は入学時の1回に限ります。

(2) その他の奨学金

その他の奨学金制度として、地方公共団体、公益財団法人、民間団体等によるものがありますが、申請方法や応募資格等が異なります。募集については、その都度学内掲示や本校ホームページ等でお知らせします。

12. その他

(1) やむを得ない事情がある場合、本校の学生寮に入寮を希望することができます。本人の申請に基づき選考のうえ、入寮を許可します。

ただし、選考の結果、入寮を認められた場合は寮生活全般にわたって本科生の寮生と同様、学寮規則及び学寮日課を遵守しなければなりません。

(2) 入学案内に関して不明な点は下記までご連絡ください。

高知工業高等専門学校 学生課 総務・入試係

〒783-8508 高知県南国市物部乙 200 番 1

TEL (088) 861-5621・5644 FAX (088) 864-5536

教育課程

(令和3年度以降入学生)						
ソーシャルデザイン工学専攻						
区分	必修 選択	授業科目	単位数	学年別配当		備考
				1年	2年	
一般科目	必修	英語コミュニケーション	2	2		
		英語講読	2	2		
		技術者倫理	2	2		
		社会学特論	2	2		
		一般科目開設単位 小計	8	8		
専門基礎科目	必修	応用数理学Ⅰ	2	2		
		応用数理学Ⅱ	2	2		
		データサイエンス	2		2	
		生命科学	2	2		生物工学共通科目
		応用物理工学	2	2		
専門共通科目		専門基礎科目開設単位 小計	10	8	2	
	必修	情報システム論	2		2	
		環境工学特論	2		2	
		プロジェクトマネジメント概論	2	2		
		地域計画学	2		2	
		システム工学実験Ⅰ	2	2		
		システム工学実験Ⅱ	2		2	
		システムデザイン演習Ⅰ	2	2		
		システムデザイン演習Ⅱ	2		2	
	選択	特別研究	4	4		
			10		10	
		機械工学概論	2	2		2単位以上修得
		電気電子工学概論	2	2		
		土木工学・建築学概論	2	2		
		応用化学概論	2	2		
		プロジェクトデザイン工学演習	2		2	2単位以上修得
		インターンシップ	2	2		
		海外インターンシップ	3	3		
		長期インターンシップ	4		4	
		専門共通科目開設単位 小計	49	23	26	
専門科目	電気電子	選択	電気電子回路工学	2	2	
			電気・電子計測	2	2	
			応用通信工学	2	2	
			マイクロ波工学	2	2	
	工機学	選択	伝熱工学	2		2
			ロボット生産加工学	2	2	
			ロボットマテリアルエンジニアリング	2	2	
	情報工学	選択	シミュレーション工学	2	2	
			非線形システム	2	2	
			情報セキュリティ特論	2	2	
			ネットワークセキュリティ特論	2		2
	土木工学	選択	計算機システム特論	2		2
			水環境工学特論	2	2	
	建築学	選択	建築設計演習	2	2	
				2		2
			建築意匠論	2	2	
	応用化学	選択	有機金属化学	2		2
			有機合成化学	2	2	
			量子化学	2		2
			生化学特論	2	2	
			化学工学特論	2		2
			セラミックス化学	2	2	
			触媒化学	2	2	
	連携科目	選択	固体化学	2	2	
			ロボティクスシステム制御工学	2	2	電気電子、機械連携科目
			応用情報システム	2	2	電気電子、情報連携科目
			ロボティクス・構造物解析	2		2
			流体力学	2	2	機械、土木連携科目
			振動防災工学	2		2
			建設材料学特論	2		2
			建設計画学	2		2
			地盤防災特論	2	2	土木、建築連携科目
専門科目		専門科目開設単位 小計	66	42	24	
		開設単位 合計	133	81	52	
修了要件：62単位（必修科目48単位、取得しようとする学位に応じて専攻科が定める選択科目のうちから14単位以上を含む。）以上修得						

※ 学位に応じて専攻科が定める選択科目

修了要件：専攻区分毎に以下に記載する単位数を修得すること

(専門共通科目) 4単位以上

○専門共通選択科目A群（プロジェクトデザイン工学演習，インターンシップ，海外インターンシップ，長期インターンシップ）のうち1科目2単位以上

○専門共通選択科目B群（電気電子工学概論，機械工学概論，土木工学・建築学概論，応用化学概論）のうち1科目2単位以上

(専門科目) 10単位以上

【電気電子工学で学位を取得するもの】

○主専門分野：電気電子回路工学，電気・電子計測，応用通信工学，マイクロ波工学，電力応用工学，ロボティクスシステム制御工学，応用情報システムのうち4科目8単位以上

○副専門分野：伝熱工学，シミュレーション工学，非線形システム，流体力学

【機械工学で学位を取得するもの】

○主専門分野：伝熱工学，ロボット生産加工工学，ロボットマテリアルエンジニアリング，シミュレーション工学，ロボティクスシステム制御工学，ロボティクス・構造物解析，流体力学，振動防災工学のうち6科目12単位以上

○副専門分野：電気電子回路工学，電気・電子計測，非線形システム

【情報工学で学位を取得するもの】

○主専門分野：シミュレーション工学，非線形システム，情報セキュリティ特論，ネットワークセキュリティ特論，計算機システム特論，応用情報システムのうち3科目6単位以上

○副専門分野：電気電子回路工学，電気・電子計測，応用通信工学，マイクロ波工学，ロボティクスシステム制御工学のうち1科目2単位以上

【土木工学で学位を取得するもの】

○主専門分野：水環境工学特論，ロボティクス・構造物解析，流体力学，振動防災工学，建設材料学特論，建設計画学，地盤防災特論から4科目8単位以上

○副専門分野：建築設計演習（1），建築設計演習（2），建築意匠論

【建築学で学位を取得するもの】

○主専門分野：建築設計演習（1），建築設計演習（2），建築意匠論，ロボティクス・構造物解析，振動防災工学，建設材料学特論，建設計画学，地盤防災特論から4科目8単位以上

○副専門分野：水環境工学特論，流体力学

【応用化学で学位を取得するもの】

○主専門分野：有機金属化学，有機合成化学，量子化学，化学工学特論，セラミックス化学，触媒化学，固体化学から4科目8単位以上

○副専門分野：生化学特論